

柏市生きもの多様性プラン（改訂）概要版 令和4年4月

◇将来像◇ 「身のまわりの 生きもの多様性を 知り、育み、伝えるまち 柏」

私たちの暮らしは、多様な生きものと生態系に支えられています

私たちは、水や食べもの、衣服、住まいの材料など、多くのものを自然の恵みとしてもらって生きています。また、自然とのふれあいや自然の中で感じるいやしの効果など、自然そのものからも様々な形で支えられています。



生きものは、お互いにつながりながら、生きています



それぞれの役割をもって生きているすべての生きものは、相互に影響し合い生きています。生態系の一部が欠けると、大小の影響が生じることはもちろんのこと、多様性が失われ、貧弱な生態系となり、私たちの生息基盤にも大きな影響があります。

生きもの多様性に目を向けることは、まちや地域のあり方、私たちの暮らし方、生活そのものを見つめなおすことにつながります。私たちの子や孫、未来のために、想像しましょう

柏の自然は、長い年月と人の営みの中で育まれてきました。しかし、高度経済成長の前に比べると、現在では、水質の悪化や水辺地の消失等により、従来から生育・生息していた生きものの種類が減少しています。生きもの多様性から生まれる恵みは、過去の世代から現在の世代に引き継がれてきたように、将来の世代に継承されるべきものです。

生きもの多様性プランの基本的な考え方

柏市では、生物多様性基本法第13条に基づく「生物多様性地域戦略」として「柏市生きもの多様性プラン」（平成23年（2011年）3月）を策定し、各種施策に取り組んできました。プランの期間は、国家戦略の目標と整合させ、2050年までとしていますが、施策やその方向性の点検をするために設定した中期的期間（2020年）が経過し、プラン策定後の社会環境の変化や進捗状況等を踏まえ、より実効性のあるプランにするため、一部見直しを行いました。



ホットポイントの保全

柏市では、以前は当たり前のように見ることができた動植物が、開発や環境の悪化によりなかなか見られなくなっています。

野生生物の種は、生きもの多様性を構成する重要な要素であり、その絶滅を防ぐことは、私たちの責務であると言えます。そのため、2016～2018年度に行われた柏市自然環境調査の結果に基づき、希少な動植物の生息地で全体として自然度が高い地域として選定された、「ホットポイント」（市内36箇所）について、生きものの生息状況を定期的に調査し、その保全と再生に必要な施策を行います。

柏市における自然環境の保全・再生に係るこれまでの取組

(1) 自然環境の保全

名戸ヶ谷ピオトープ



増尾の森



谷津



(2) 制度による保全施策

谷津田保全要領に基づく協定、特別緑地保全地区制度、フットパス事業

(3) 市民参加

里山の保全

(4) 環境教育

手賀沼船上見学



手賀沼船上見学

柏市における生きもの多様性に係る課題

(1) 生きものの生息域の減少

- ・生きもの多様性を担保してきた自然環境や緑が減少しています。
- ・本市を特徴づける重要な地区に対して、重点的な自然環境の保全、維持管理が求められます。



(2) 外来種問題の顕在化

- ・多くの外来生物が確認されており、対応策が求められています



(3) 生きもの多様性に対する認識不足

- ・生きもの多様性に対する市民の意識を高め、市民一人ひとりがそれぞれの立場で、生きもの多様性の重要性を自分事として認識することが求められています

(4) 活動団体の高齢化、担い手不足

- ・生きもの多様性を理解し、自然を維持する担い手や、維持管理を継承していくことが必要です



基本方針と目標

(基本方針1) 柏らしい生きもの多様性を守り、育てる

柏市内の水辺や緑などの自然環境は、生きものの生息・生育基盤として、生きもの多様性を支え、特徴づけるものであり、その保全を図っていきます。また本来の自然環境を保全するため、外来生物について、必要な防除等を進めます。

代表的な指標	現況値	目標	目指す状態	備考／現況値の内容
種の生息状況	<p style="text-align: center;">生息地数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10箇所以上：34種 ・5～9箇所：52種 ・1～4箇所：131種 	維持	手賀沼や利根川だけでなく、身近な樹林地や水辺なども市民に大切に守られ、豊かな自然とふれあうことができる場の中に多様な生きものが生息している。	※市内のホットポイントにおいて、生息が確認された箇所数別の「人里の生きもの（植物）」の種数
緑地空間の状況	<p style="text-align: center;">緑のオープンスペース</p> <p style="text-align: center;">8.42㎡/人</p> <p style="text-align: center;">(令和2年度)</p>	増加	手賀沼や利根川だけでなく、身近な樹林地や水辺なども市民に大切に守られ、豊かな自然とふれあうことができる場の中に多様な生きものが生息している。	※市が整備・管理を行う公園・運動場のほか、民有地を借地した児童遊園・市民緑地等、市民が自由に利用できる公園的な空間のこと

（基本方針2） 生きもの多様性への関心を高め、広げる

「生きもの多様性」について市民や事業者のみなさまの関心を高め、保全や回復についての活動を活発にしていくためにも、関係する知見や情報を蓄積し、わかりやすく発信していくとともに、自然とふれあう機会や学ぶ場を創出していきます。

代表的な指標	現況値	目標	目指す状態	備考／現況値の内容
自然への関心度	自然環境への関心度 23% (令和2年度)	増加	自然環境に関心を示す市民が増え、生きもの多様性や自然からの恵みの重要性を多くの市民が理解している。	※『柏市まちづくり推進のための調査』において、「身近な自然環境に関心を持っている」と回答した人の割合



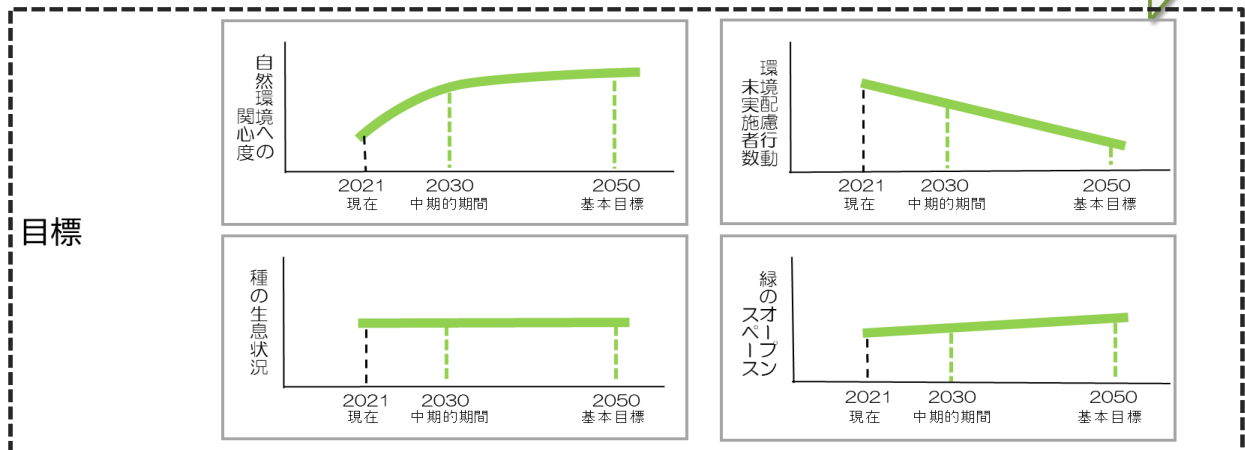
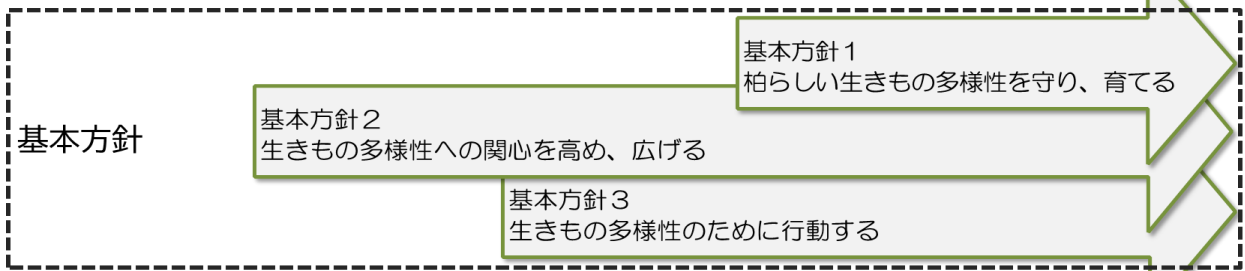
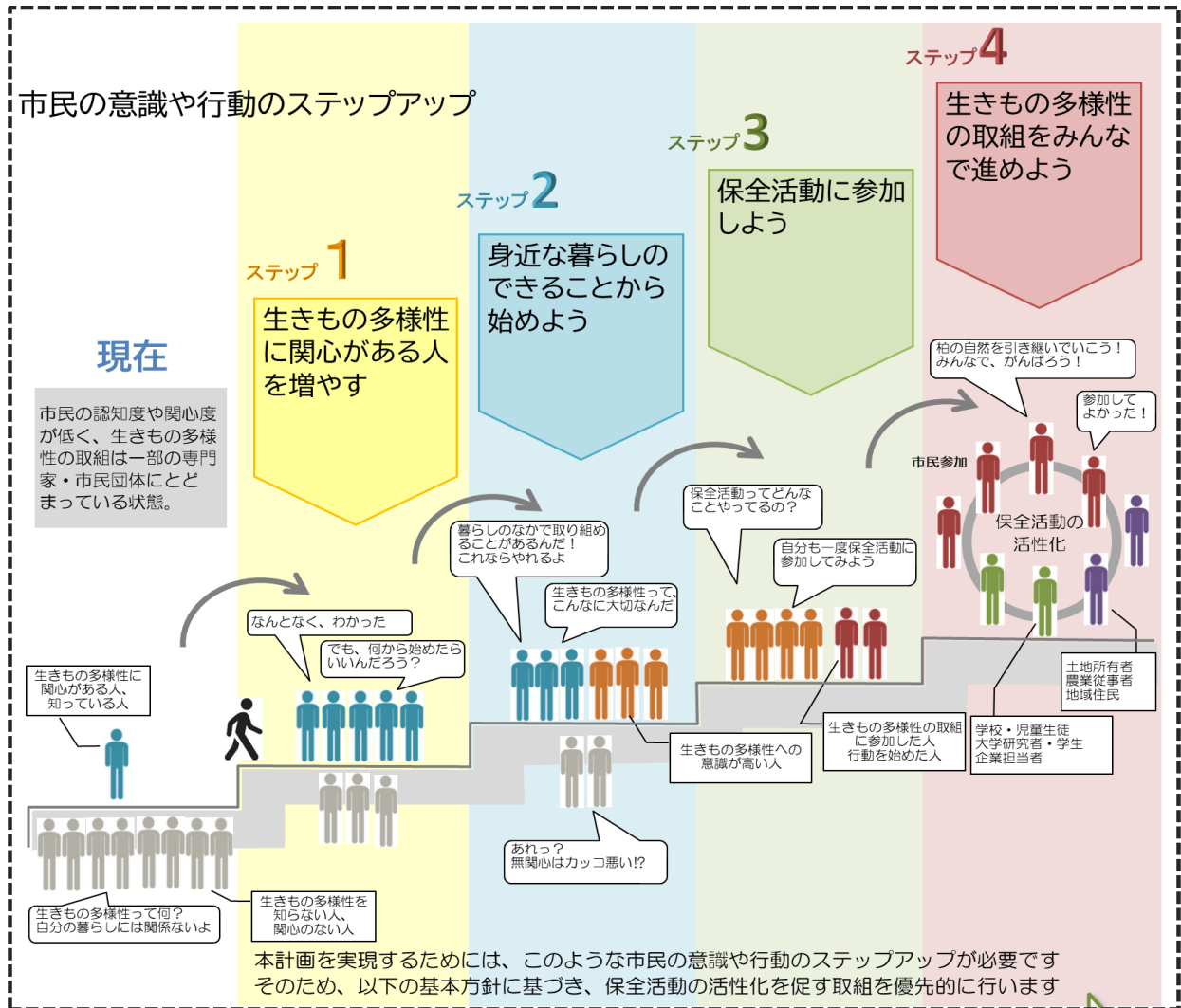
（基本方針3） 生きもの多様性のために行動する

「持続可能な社会」を構築するためには、将来にわたって生きもの多様性の重要性を引き継いでいく必要があります。そのために、自然に対する感性を育み、自然の仕組みと大切さを理解し、環境保全のために行動する市民の方を増やしていきます。

代表的な指標	現況値	目標	目指す状態	備考／現況値の内容
環境配慮行動の普及状況	環境配慮行動未実施者数 25,103人 (令和2年度)	減少	環境学習や自然体験及び保全活動等を恒常に行う市民が増え、生きもの多様性に配慮したライフスタイルが定着している。	『柏市まちづくり推進のための調査』において、「地球環境のために取り組んでいることをお選びください」という設問に対し、「特に行っていない」と回答した割合5.8%にあたる人数(推定)を指します。 ※432,806人(R2.10.1時点)



◆市民の意識や行動のステップアップと基本方針等との関係



柏市生きもの多様性プランの取り組み

〔基本方針1〕 柏らしい生きもの多様性を守り、育てる

1-1 生きもの多様性を保全する

- ①河川、湖沼の保全
- ②樹林地、斜面林の保全
- ③谷津、湧水地の保全と再生
- ④農地の保全
- ⑤希少種の保全、野生鳥獣の保護
- ⑥野生鳥獣の管理、外来種対策の推進



あけぼのの森での緑地保全活動



シュレーゲルアオガエル



コバギボウシ



手賀沼沿いの布瀬斜面林

1-2 自然とまちの調和を図る

- ①公共緑地・空間における維持管理
- ②開発行為等における生きものへの配慮

1-3 自然を守り、つなぐ

- ①公共施設や民有地における生きもの空間づくり
- ②河川・水辺・緑地の生態系ネットワークづくり

◆公的施設の緑化



市役所分庁舎の緑のカーテン



緑のカーテンづくり（柏第六小学校）

[基本方針2]生きもの多様性への関心を高め、広げる

2-1 生きもの多様性を知る機会をつくる

- ①自然体験活動の推進、機会づくり
- ②学校教育、環境教育
- ③生きもの多様性の実態把握・調査
- ④情報発信、普及啓発

2-2 暮らしに活かす

- ①生きもの多様性を意識した暮らしの推奨

[基本方針3] 生きもの多様性のために行動する

3-1 主体的な行動を支援する

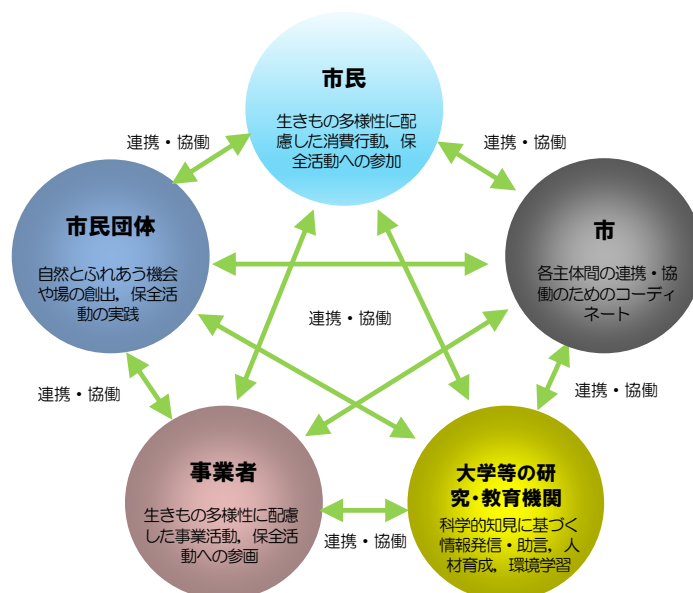
- ①（法令等の）制度を活用した保全・管理活動の推進
- ②市民による自然保護活動への支援

3-2 多様な主体間の連携・協働・交流

- ①市・市民団体間の連携・協働の機会創出
- ②県・関連自治体との連携
- ③大学・企業等との連携・協働

推進体制

「かしわ環境ステーション」は、環境の学習や研究の場として、また、環境保全活動を行う市民や団体の交流の場として利用できるものであり、生きもの多様性に関する普及啓発、環境教育、研究、情報発信及び人材交流など、保全を実施していく際の拠点として活用します。



生きもの多様性を守るために私たちができること

(環境省の提唱する「国民の行動リスト」をもとに作成)

①生物多様性にふれよう

- 水や空気や食べ物がどこからうまれたのかを考えてみよう
- ピクニックやハイキング、キャンプに出かけよう
- 虫取りや魚釣り、花摘みをしよう
- 動物園、水族館、植物園、博物館へ行こう
- 手賀沼や大堀川、大津川、柏市内の公園や谷津田、樹林地、湧水地などに行こう
- 野菜や花を育ててみよう
- お花見、お月見、紅葉狩りなどで季節を楽しもう



②生物多様性を守ろう

- 自然を汚さないようにしよう（ごみのポイ捨て禁止、水を汚さない）
- 旬のもの、千葉県産や柏市産の地のものを食べよう
- 地球温暖化を防止して、生きものがすめる環境を保とう
- ペットはずっと大切に最後まで飼おう
- 柏市内の自然保護活動（名戸ヶ谷ビオトープ、増尾の森など）に参加しよう
- 希少な生きものを守っていこう



③生物多様性を伝えよう

- 家族や友達と自然の恵みや大切さについて語ろう
- 学校で生きものについて語る機会を増やそう
- 外来生物の脅威について語ろう
- 生きもの多様性の保全に取り組む企業・NPO・市民団体を応援しよう
- 農業や漁業を体験したり、地元の伝統行事に参加してみよう

